

## 書評

## 徳光用水

三 上 一 夫

さきほど徳光用水土地改良区が刊行した『徳光用水』の著者細野丈助氏は、長年にわたり区内の古文書等をくまなく調べて、用水史として体系的にまとめたものである。

徳光用水は、足羽川から取水する川水のなかでは最も大きく、かんがい面積は一千町歩におよび、旧足羽町の東郷・上文珠・下文珠・六条が含まれ、また東大寺荘園で著名な糞置荘も、この用水でかんがいされたのである。

前編は「用水の歴史」とし、第一章「太古のすがた」から第二章「江端川改修と

土地改良事業」までしるしている。そのなかで区内の土地制度、租税制度の歴史的展開をはじめ、藩政期の用水の開発・維持管理、他用水との関係、用水奉行戸田公の業績、文政年間の大事業、明治のかんばつと大洪水、六条用水との合同水門設置、対岸の前波区との水争い、土地改良区の設立、県営護岸工事、足羽川堰堤の完成などについて、平易でしかも興味ぶかく述べている。

また後編の「部落と用水」では、小安はじめ三〇の部落の歴史につき、用水問題に視点をすえて、関係古文書を引用して説明する。

従来用水問題を中心に扱った歴史書が県下に見られなかっただけに、今後他の用水史の研究に大きな刺激剤となり、また極めて貴重な参考となるわけである。

とくに「先祖の血と汗によって創られたこの用水を書きとどめ、子孫の指標にしたい念願である。」との著者の「あとがき」の最後のことばこそ、この著書刊行の真の意図するところとみられ、読者に対しても

大いに訴えるものがあるろう。

A5判二四四ページ、頒価一、二〇〇円  
発行所 福井市大手二丁目四番二二号、  
徳用水土地改良区